

ね

FUCHU HOSPITAL

つとわーく

Vol.188

H31.1



謹賀新年



新年のご挨拶
妊娠糖尿病について



日本医療機能評価機構
認定第 GB83 号



府中病院

地域医療連携室



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては健やかな良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年日本は洪水や台風、地震、酷暑に襲われ、まさに「災害の年」でありました。台風時には病院が一部停電となり、機能を維持できない状況に陥りかけましたが、幸い停電の時間が短く、自家発電でなんとか凌ぐことができました。この経験から災害時にライフラインが途絶した際の事業継続計画（Business continuity planning, BCP）の策定に真剣に取り組む必要性を痛感しました。

また7月、8月の酷暑の際には脱水や熱中症の患者が急増し、500件／月を超える救急搬送を受け入れることができ、大阪北部地震の際には遠方からの救急受け入れ体制にも協力することができました。

災害時における急性期病院としての我々の役割の重さを改めて気付かされた1年となりました。

一方、医療界では、診療報酬・介護報酬の同時改定のみならず、地域医療構想の推進、医療計画・医療費適正化計画の見直し、新たな専門医制度の始動等の大きな改革が実施され、多くの急性期病院がその対応に苦慮し、多大な労力と時間を費やすことを強いられました。

そんな厳しい状況に加えて府中病院では周辺の医療環境の変化も逆風となり、本当に大変な1年でしたが、なんとか踏ん張ることができましたのも、職員の頑張りや地域の先生方のご理解とご支援のおかげと心より感謝申し上げる次第であります。

今年は新天皇陛下がご即位され、年号も変わり、新しい時代の幕開けとなります。

「災い転じて福となす」となるような、良いことがいっぱいになることを切に願ってやみません。

今後もいかなる状況になろうと、府中病院は成長し続け、全力で地域に貢献してまいります。

本年もより一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、先生方の益々のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

院長 竹内一浩



新年あけましておめでとうございます。



旧年中は地域の医療機関の皆様方には多大なるご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年は病診連携の充実とご紹介患者の症例共有を目的に、セミナーや病診オープンカンファレンスを開催、また地域住民の皆さんと顔の見える関係づくりや医療や健康に関する意識、知識向上のお手伝いできればと出張講座も各地域で開催させていただきました。

開催時には多くの先生方、地域住民の皆様にご参加いただきましたことを心より感謝申し上げます。



本年も地域の中核病院として地域の皆様のお役にたてるような取り組みや情報提供を行い、医療を通じて地域の活性化の一助となるよう努めてまいります。

今後も私たちは“顔の見える対応”を心がけ、“心の通う連携”を合言葉にスタッフ一同取り組んで参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室 室長補佐 麻生恵美

妊娠糖尿病について

産婦人科 副部長 三橋 玉枝

～産科～

府中病院では年間 900~1000 件の出産を扱っています。NICU を有さないため 35 週未満の分娩は取り扱えませんが、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病、他科疾患合併に関し、積極的に管理を行っています。その中で妊娠糖尿病は、産後も耐糖能異常の発症率が高く、地域の先生方と連携が大切な疾患です。今回は当院での妊娠糖尿病への取り組みをご紹介します。

妊娠糖尿病 (GDM) とは

妊娠糖尿病は診断基準が 2010 年に大きく変化し、世界共通の診断基準が提唱されました。そこでは妊娠糖尿病は、「妊娠中にはじめて発見または発症した糖尿病にいたっていない糖代謝異常である」と定義され、妊娠時に診断された明らかな糖尿病 (overt diabetes in pregnancy) や妊娠前に診断されている糖尿病合併妊娠は含めないことになりました。妊娠中の母体高血糖は、妊娠高血圧症候群、早期産、羊水過多症、肩甲難産、帝王切開率の上昇などを引き起こします。新生児も低血糖、特発性呼吸促迫症候群、多血症などになりやすいので十分な経過観察が必要です。

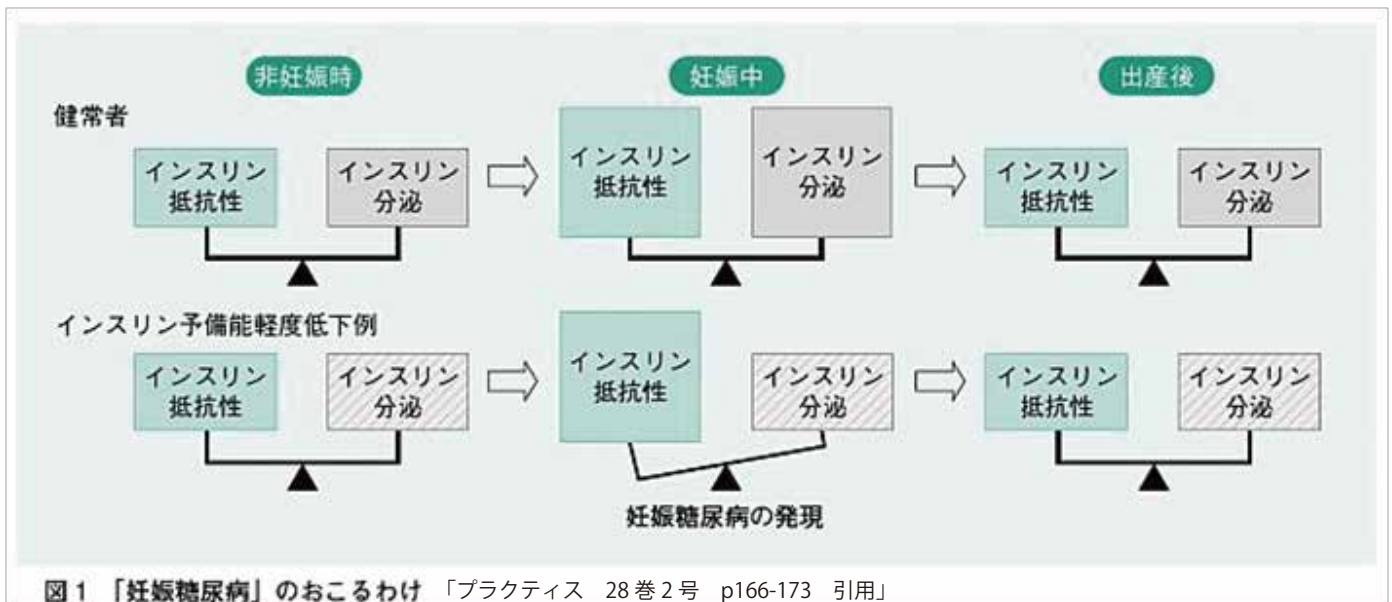


図1 「妊娠糖尿病」のおこるわけ 「プラクティス 28巻2号 p166-173 引用」

< 診断基準 >

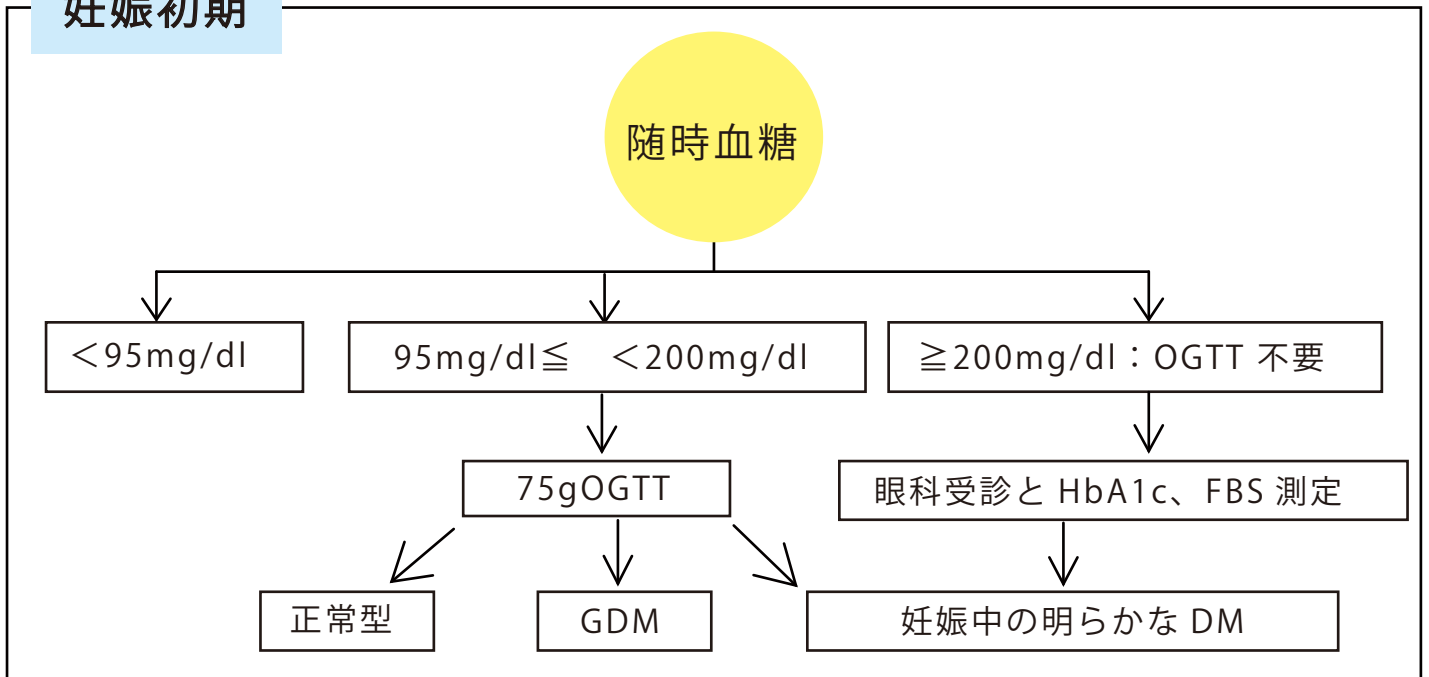
75gOGTT において次の基準の 1 点以上を満たした場合に診断します。

- ① 空腹時血糖値 $\geq 92\text{mg/dl}$ (5.1mmol/l)
- ② 1 時間値 $\geq 180\text{mg/dl}$ (10.0mmol/l)
- ③ 2 時間値 $\geq 153\text{mg/dl}$ (8.5mmol/l)

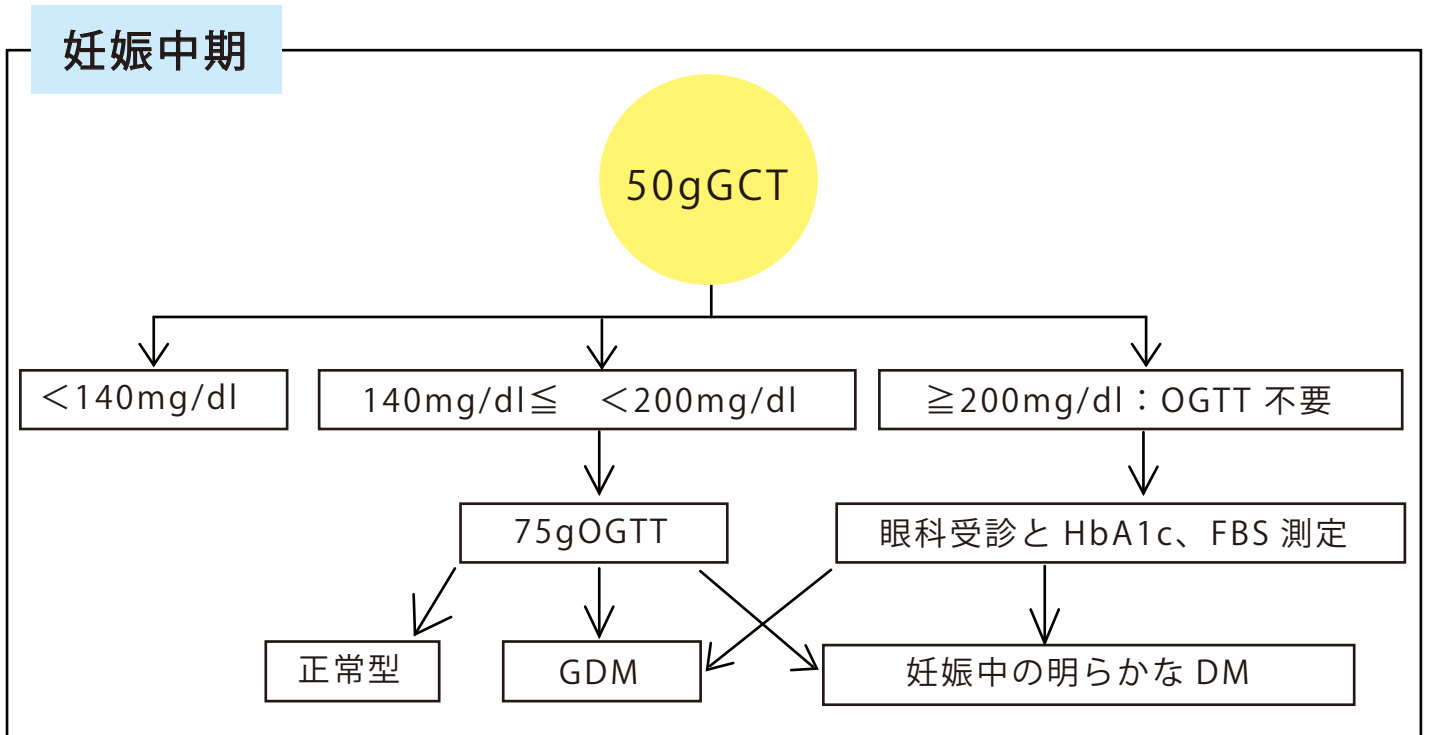
尚、空腹時血糖値 ≥ 126 mg/dl HbA1c 値 $\geq 6.5\%$ のいずれかを満たす場合は「妊娠中に診断された明らかな糖尿病」として妊娠糖尿病とは別に管理します。

当院での診断手順 (高度肥満、家族歴、GDM 既往等は適宜 75gOGTT)

妊娠初期



妊娠中期



GDM と診断されたら

妊娠中の血糖は食前血糖値 100mg/dL 未満、食後 1 時間血糖値 140mg/dL 未満、食後 2 時間血糖値 120mg/dL 未満に保つのがよいとされています。非妊時の目標値とは大きく異なり、GDM を積極的に診断しなければならない理由です。当院では GDM と診断された妊婦様には食事指導を行い、グルテストセンサーを貸出して自己血糖測定 (SMBG) を行い、食前 100mg/dL 未満、食後 90 分 140mg/dL 未満を目標に食事指導を行っています。

食事指導（6分割食）や運動療法を行っても血糖コントロール不良の時は糖尿病内科共観となり、インスリンを導入しています。

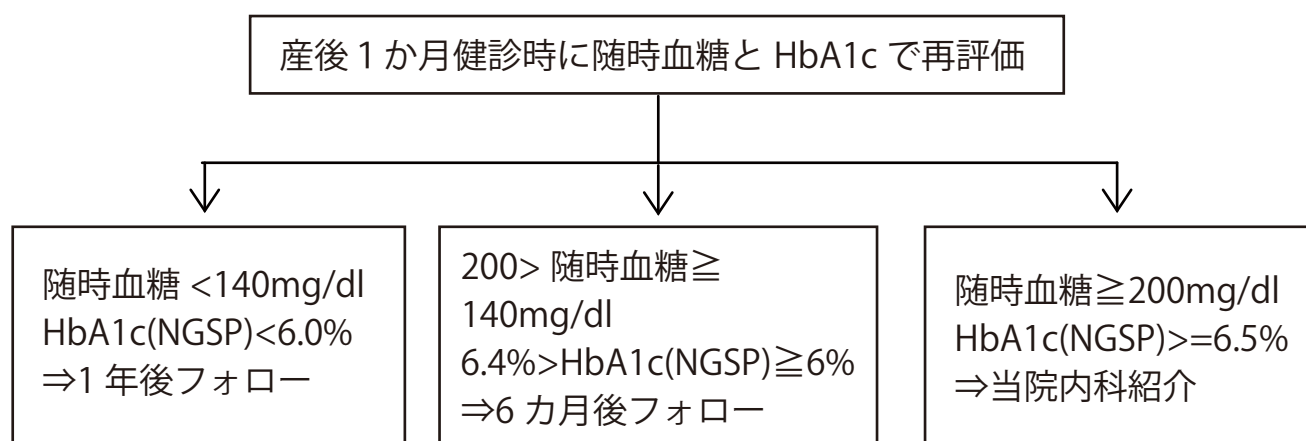
<症例数>

	総分娩数	GDM	インスリン導入数
2017年	1008	92	8
2018年（12/22まで）	1036	91	4

<産後のフォロー>

GDMの人は、産後1年以内で糖尿病になる頻度が2.6～38%、産後5～16年では17～63%の頻度で糖尿病を発症すると報告されています。また、メタボリックシンドロームの発症率も正常妊婦さんに比較して高いことが報告されています。

当院ではGDMと診断された妊婦さんは分娩後も継続して耐糖能異常をフォローし、HbA1cが高いまま次回妊娠をすることがないように努力しています。



<今後の課題>

当院で出産後、次回の妊娠を希望されない場合、地域のかかりつけ医の皆さまと連携して糖尿病のフォローをしていただけるようなシステムづくりを今後の課題としています。

今月の
担当医師



産婦人科 副部長 **三橋 玉枝**(みつはしたまえ)

<資格等>

日本産科婦人科学会専門医・指導医

日本超音波医学会超音波専門医・指導医

母体保護法指定医

新生児蘇生法「専門」コースインストラクター

当院にて開催予定のセミナー・勉強会・イベントをご紹介します！

2019. 2 月

第 15 回病診オープンカンファレンス（総合診療センター）

探求！ 外来診療のコツ～外来症例から学ぶ～（2 症例）

日時：平成 31 年 2 月 7 日（木） 15：30～16：30

場所：府中病院 西館地下 1 階 セミナーホール

開始時間が変更になりました。

泉州産婦人科懇話会

婦人科の関わる遺伝性腫瘍とゲノム医療

日時：平成 31 年 2 月 16 日（土） 16：00～18：00

場所：府中病院 西館地下 1 階 セミナーホール

2019. 3 月

第 30 回府中循環器セミナー

※詳細は後日郵送させていただきます。

日時：平成 31 年 3 月 9 日（土） 14：00～16：00

場所：府中病院 西館地下 1 階 セミナーホール

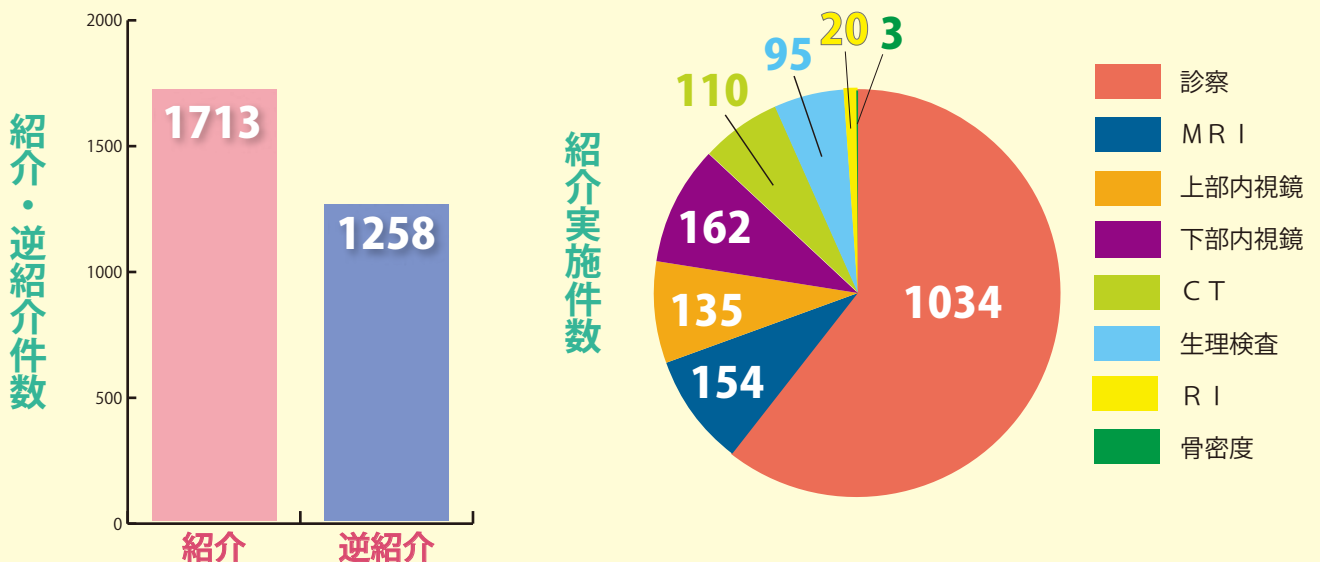
泉州糖尿病 up to date 2019

※詳細は後日郵送させていただきます。

日時：平成 31 年 3 月 23 日（土） 17：00～19：00

場所：府中病院 西館地下 1 階 セミナーホール

紹介実績<平成 30 年 12 月>



2019年1月・188号 ねっとわーく

発行責任者：院長 竹内 一浩

編集責任者：地域連携部 松田 有裕

編集者：地域医療連携室 森 舞子

〒594-0076 和泉市肥子町1丁目10番17号 府中病院 地域医療連携室

TEL：0725-40-2147 予約専用フリーダイヤル：0120-40-2147

FAX：0725-40-2148 E-mail：chiikirenkei@fh.seichokai.or.jp

私たちの理念

愛の医療と福祉の実現。

地域と職員と共に栄えるチーム

Yu・ki・to・do・ku ゆき届いたサービス

私たちの基本方針

チームとして、そしてパートナーとして

チャレンジします。

3つのベストにチャレンジします。